

歌集「セキレイの心」

イコ



ひのみさきとうだい
日御碕灯台 (大社)

燈台の 真白き光りを うつしとり 鳥の群れ鳴く 日の岬かな
ひかる空を ^{およ}遊ぶ千鳥の わらう海 腰かけて見る 春の声、色

「何メートル？」 聞く声すれど チョコかじり ねころぶ崖の 岩はしづかに
潮風に 羽なびかせて わらいなく 鳥のこぼした 空の落書き



ふみしま
経島 (大社)

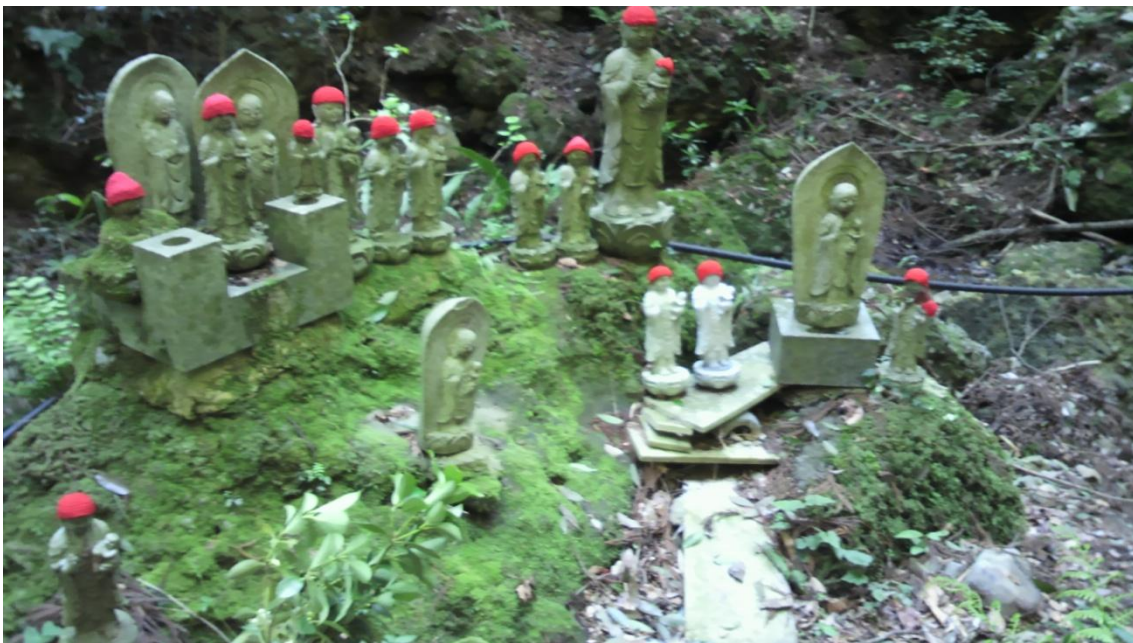


いわひ こうえん
岩樋公園（大津）

ひい 伊の川の みづひく 岩樋 かがやく陽 しづかなる日の さざなみ祝ひ

しじま川を セキレイの心 進み行けば 砂州に展けし 天の足跡

帰る日の 暗路に佇ちし 常夜燈 大鬼のカゲ 曳き連れて往く



たちく えきよう おつたち
立久恵峡千体仏（乙立）

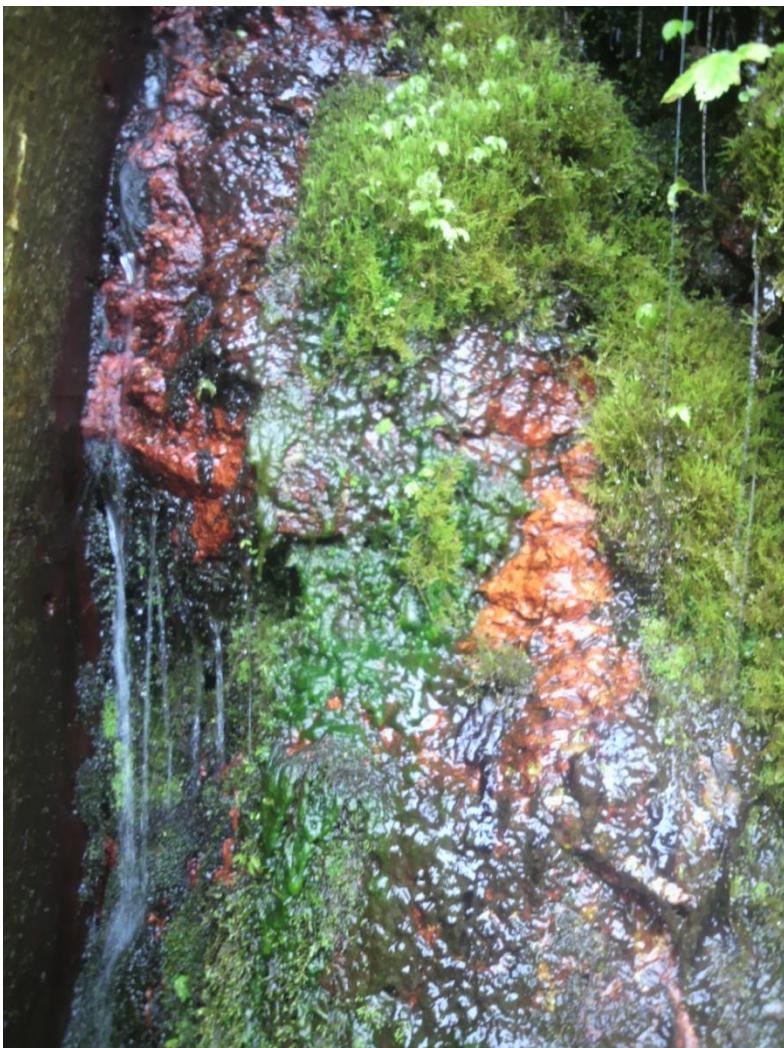
峡谷に 遊ぶ子の 声 こだます 苔生す樹下に 赤帽の地蔵



立久恵峡（乙立）

やまあいの 3人水辺に 近寄りて 瀬に石放る 27の暮れ
山峡の 汗ばむごとき 陽気にも 両足ひたす 水はまだ春

無上泉（佐田）



湧き出づる
水の落つるに
聞き惚れる
音のひろがり
音のすみかよ

暑気逃れ
無上の泉
おとづれて
野猿のやうに
水をすくえば

濡れ肌に
緑衣纏わす
佐田神の
艶やかなりし
指先を見ゆ